

令和5年3月28日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会（第2部会）

区分	内容
テーマ・事業名	交通（地域の実態把握/地域の移動手段検討） 防災（防災講演会/防災手帳リニューアル） 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、地域の移動ニーズを把握・移動手段を検討するとともに、区内の公共交通情報を発信し利用促進を図る。 「防災士の会 秋葉支部」と協働で講座を開催し、「秋葉区防災手帳」の活用促進、地域ごとの防災意識の高揚を図る。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>【交通】満日地区生活交通支援</p> <p>昨年度に引き続き満日地区に対し生活交通支援を実施した。</p> <p>4月: 昨年12月に満日地区全家庭を対象にしたアンケートを集約</p> <p>5月: 満日地区新任町内会長に生活交通支援の取組を説明</p> <p>6月: 満日地区の福祉施設、秋葉区社協と生活交通支援について意見交換</p> <p>7月: 生活交通支援は買物送迎として自動車、運転手、事故等の保険、連絡体制等の組織体制検討着手</p> <p>8月: 満日地区、買物支援希望者の募集開始</p> <p>9月: 買物支援希望者11名を12月に実施することで体制整備の協議</p> <p>10月: 買物支援は12月6日、20日に試行で実施し、3月から毎月第2・4の月2回実施することで各福祉施設と調整</p> <p>11月: 買物支援の行き先であるウオロク新津支店に挨拶</p> <p>12月: 6日に9名の買物支援希望者を福祉施設自動車4台で送迎実施 20日は大雪のため中止</p> <p>2月: 北区エリアバスタク見学 5名参加</p> <p>3月: 買物送迎支援 14日9名、28日9名実施</p> <p>4月に公共交通ガイド配置整備完了予定</p> <p>【防災】防災講演と防災手帳の刷新</p> <p>5月: 防災講演会を新聞地区で開催することを新聞コミ協と調整</p> <p>6月: 防災手帳の刷新は秋葉区内全小中学生に配布することでデザインの着手</p> <p>7月: 防災講演会は村上地区の豪雨災害を教訓に秋葉区全地域対象で実施準備</p> <p>8月: 防災講演会を10月15日開催で各地区の町内回覧で参加者を募る</p> <p>10月: 10月15日、防災講演会を開催実施 78名の受講者 防災手帳を全小中学生に配布完了</p>

<p>事業の評価</p> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実 効性・効率性の評 価など</p>	<p>【交通】満日地区生活交通支援</p> <p>○区自治協議会2部会7期からの困難な継続事業だったが、地域の社会福祉法人である4か所の福祉施設の協力で買物支援を実行できたことは大きく評価できる。</p> <p>○実現できたことは秋葉区社会福祉協議会の地域内にある福祉施設との協議が大きく、満日地区コミュニティ協議会、町内会、民生委員と福祉施設、社会福祉協議会、自治協議会の協働の絆が強く結ばれた。</p> <p>○地域の生活交通に関わる課題の現状把握のため実施したアンケートでは、回収率が80%近くになり住民の関心の高さが伺われた。特に買物や通院で移動手段を望む一人暮らしや二人暮らしの高齢者が多いことが把握でき、そうした高齢者にたいする交通支援の必要性が大きいと把握できた。</p> <p>○この事業で大きな課題は持続可能な送迎車の提供と運転手や保険、燃料費等だったが、福祉施設の活動で社会貢献が求められ悩んでいることが判り、課題の解決に繋がった。</p> <p>○今後は満日コミュニティ協議会を中心に町内会や福祉施設の協働で持続拡大し、他の地域への拡大を期待したい。</p> <p>○公共交通の情報発信し利用促進については4月にバス運行ダイヤの改定と運行エリア地図の表示範囲の拡大を検討し、各公共施設等に配備する予定で利用促進を期待したい。</p> <p>【防災】防災講演会と防災手帳の刷新</p> <p>○コロナ感染の中、講演会開催ができるか不安であったが実施できた意義は大きく、区民の防災意識の高さが伺えた。</p> <p>○講演会は、第1部で県砂防ボランティア協会と防災士の会から「土砂災害の現状と対策」と「防災手帳の活用」を学び土砂災害の予兆を知り、第2部では、中野小路たかまる師匠の「防災漫談」を聞き、フレイル予防や避難の際に近隣の避難困難者を知るための見回り活動の大切さを学んだ。</p> <p>○防災は一人ひとりの正しい行動が大切で、今後も継続的に防災活動を行う必要がある。</p> <p>○小中学生用の防災手帳を作成し秋葉区内全小中学生に配布したことにより、各自が家に持ち帰って、家族と災害発生時の避難場所等を話し合い、手帳に記入することで家庭での防災意識の高揚が図られ、災害時の早期安否確認が期待できる。また、協力を得られた地域コミュニティ協議会を通じて各小中学校へ配布できたことは、地域と学校を繋ぐきっかけづくりに寄与したと評価できる。</p>
---	---